

湯沢・横手の高校生が知恵絞る

地域課題にアタック

横手市と湯沢市の高校生が地域課題を解決するため実行したプロジェクトの最終報告会が、横手市のYふらさで行われた。4チームが地域活性化に向けた心意や反省点を発表した。



地域課題解決に向けて高校生が実行したプロジェクトの報告会

秋田の一般社団法人「F」磨き、プロジェクトを通じてROM PROJECT(竹 さまままな人とながりを生内筆代表理事)と、湯沢市にむくを目的としている。工場を置くアダムド並木精 取り組んだ高校生は横手、密玉石(東京、並木里也子社 雄物川、湯沢翔北3校の計8長)の企画。目標設定やアイ人。4チームに分かれて昨年ブア発表、自己分析する力を10月に活動を開始した。今月

学びや反省点、活動報告

22日の報告会には関係者約20人が参加。取り組みを多くの人に知ってもらおうと、インターネットでライブ配信も行った。

高齢者宅で除雪ボランティアを行ったチームは、お年寄り世帯が増加し地域間交流が希薄となる「無縁社会」に着目。地域の中で若者と高齢者が助け合い交流できる場所をつくる大切さを学んだとした。

ウェブサイトを活用して困り事を募り解決策を実行したチームは景観を向上させようと、雪だるまを作り湯沢市の商店街に並べた。通行を妨げる歩道の雪を利用、ボランティアを集め作業に当たった。

地域活性化を担う人材の育成を狙ったチームは、知見を深めることを目的としたディスカッションを開催。大人と高校生が交流を深めた一方、高校生の質問がなく好奇心を養う難しさを感じた。

若者に地域の良さを伝え地元離れを防ごうとしたチームは、リーフレットと写真共有アプリを使った。ワークショップで情報収集に取り組んだが、知られてこなかった魅力の発掘に苦労したという。

このチームの川雅哉さん(雄物川3年)は「人口が減り続けることに危機感を覚えた。社会に出て何かからの活動をしたいと思っ」と振り返った。(岡部拓郎)